

府養研ニュース

2005年3月号

**一年間ご協力ありがとうございました。
今後とも府養研をよろしく願います。**

このページでは要点だけをお知らせしています。

追加記事は、本ページのリンクをクリックください。新しいウィンドウが開きます。

府養研ニュースは各種案内等の事務連絡と一緒に、毎月第1月曜日(祝日の場合火曜日)にEメールで配布されています。4月は春休みのため11日(月)発行とします。一部メール網がまだ整備中もしくは検討中の市町村は、郵送または逡送されています。

平成17年3月7日発行 大阪府養護教育研究会(広報部)

事務局 豊中市立南桜塚小学校 会長 西田 益久 〒561-0882 豊中市南桜塚2-2-1
問い合わせ・ご意見は、Mailで[本部役員](#)まで

府養研から

ホームページもご覧ください。 <http://fuyouken.visithp.jp>

特別支援教育の動向、関連リンク紹介などの各種情報をご覧になれます。
ニュースの全部とバックナンバー、講演会案内、報告がご覧になれます。
各支部のページは随時更新されています。ホームページからご覧ください。

新年度の担当者に府養研ニュースのことの引き継ぎをよろしく願います。

役員総会 本部役員・支部役員のみ 次年度役員の方、ご予約ください)

次年度は 第1回 平成17年6月 9日(木) 午後3時～5時

第2回 平成17年9月 8日(木) 午後3時～5時

第3回 平成18年1月12日(木) 午後3時～5時です。

会場は アウリーナ大阪 3階 生駒(第2回のみ 信貴)の間

次年度総会 (会員の方はどなたでも参加できます。)

平成17年5月19日(木) 午後3時～5時 会場 アウリーナ大阪 3階 生駒の間

講演会が予定されています。

大阪府教委、大阪府教育センター特別支援研究室と府養研との懇談会

2月14日にマッセ大阪にておこなわれました。[関連記事はこちら](#)

お詫び テーマ別研究会第4分科会の資料、ホームページにアップする予定でしたが、諸事情によりできなくなりました。お詫びいたします。

研究部から

<p>好評にて終了 自閉症教育プロジェクト講演報告</p>	<p>2005年2月24日(木)14:00～16:30 場所 サンスクエア堺(勤労者福祉総合センター) 高機能自閉症およびアスペルガー症候群の理解と教育現場での対応への示唆 講師 内山登紀夫先生(児童精神科医、よこはま発達クリニック) 400名収容の会場が満員となりました。教師の他、保護者も多数参加されました。高機能自閉症のご本人の参加もありました。アンケート一部紹介</p>
<p>ICT活用プロジェクト研究会報告</p>	<p>2005年2月9日(水)13:50～16:30 養護教育におけるICT活用の実際 大阪府立岸和田養護学校 授業者 小西 順 先生 報告はこちら</p>
<p>(LD教育) 北河内LD研究会報告</p>	<p>第4回 1月19日(水) 門真ルミエールホール テーマ「一人一人を見つめて」～通常学級と校内での取り組みを通して～ 講師 堺市立向丘小学校・堺LD研究会 米田 和子先生 第5回 1月28日(金) 寝屋川教育研修センター テーマ「発達障害のある児童・生徒と思春期の課題(二次障害への向き合い方)」 講師 大阪少年鑑別所首席専門官 小栗正幸先生 報告記事はこちらに</p>

各支部ニュース

<p>南河内地区 なかよし作品展</p>	<p>2月16日(水)から18日(金)まで、富田林市の「すばるホール」で南河内地区「なかよし作品展」が行われました。地区の小学校、中学校の養護学級と富田林養護学校、藤井寺養護学校の児童・生徒の作品が1420点以上集まり、来場者数も2400人と、とても盛大になりました。詳細な記事はホームページを参照ください。</p>
--------------------------	--

他団体から

<p>近特連和歌山大会</p>	<p>「一人ひとりの教育的ニーズに応える特別支援教育の実践をめざして」 日時 2005年8月5日(金) 午前 開会行事・記念講演 演題「これからの学校教育と特別支援教育」 講師 宮崎 英憲 東洋大学文学部教授 午後 分科会 場所 和歌山県民文化会館 ・ ホテルアバローム紀の国 参加資料代 3,500円 一次案内はこちら</p>
-----------------	--

日本特殊教育学会第43回大会	2005年9月23日(金)～25日(日) 場所 金沢大学角間キャンパス http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/tokkyo/
チャレンジキッズ研究会2005	2005年3月26日(土)13:00～16:30 特別支援教育におけるコミュニケーション支援 - AACから情報教育まで - http://fyw.sue.shiga-u.ac.jp/chaken/ 場所 ピアザ淡海(おうみ)

大阪府教委、大阪府教育センター特別支援研究室と府養研との懇談会

平成17年2月14日（月）マッセおおさか 第1研修室において、上記懇談会が行われました。

テーマは「特別支援教育を推進するための制度のあり方について」（中間報告）をうけてです。府養研からは活動についての説明、府教委・センターからは大阪府としての国家要望等の概要を含めて説明がなされました。

懇談では以下のような柱にそって意見交換がなされました。

- ・障害のある子どもたちの教育支援体制の充実について
- ・特別支援教育コーディネーターについて
- ・盲・聾・養護学校の「センター的機能」について
- ・「特別支援教育推進体制モデル事業」の成果と課題について
- ・交流及び共同学習の積極的推進について
- ・後期中等教育における特別支援教育について
- ・各市町村の特色や違いについて

今後の特別支援教育の方向は国の決定が具体的になってくるのを待たなければなりません。しかし、大阪が今までの養護教育で培って来たものを存続、発展できるべく努力していきたいということにおいて、府教委・センターも府養研も考えを一つに協力していけると感じました。（文責 本部書記 藤岡）



自閉症教育プロジェクト講演報告

2005年2月24日(木)14:00～16:30 堺市のサンスクエア堺(勤労者福祉総合センター)において、本会自閉症教育プロジェクト主催の講演会が開かれました。演題は「高機能自閉症およびアスペルガー症候群の理解と教育現場での対応への示唆」、講師は児童精神科医、よこはま発達クリニックの内山登紀夫先生でした。会場は400名収容でしたが、開演前よりすでに満員でした。遠くは広島から来られた方もおられました。参加者の内訳は教師の他、保護者も多数参加され、なんと高機能自閉症のご本人も来られていました。講演は自閉症研究の基本をおさらいしたあと、実際の臨床における、なるほどと思われる実践の話におよびました。基本の部分はすでに知識として知っておられる方も多かったと思いますが、高機能自閉症に関しては、巷に諸説入り乱れたり、誤解のある部分も多いので、知識の整理に役立ったのではないかと思います。実践の話では、それぞれの経験に照らし合わせて、「うんうんそうなんだよ」と思ったり、まわりの理解のしんどさに共感したり、「そうか、その手があったか、しまった。」と思われたり、それぞれにお土産となる知識、情報を得ることができたのではないかと思います。職場のすべての教師に聞かせたいというつぶやきがたくさん聞こえておりました。以下に一部ですが、アンケートを紹介させていただきます。



アンケート

<教師>自閉症やアスペルガー症候群のことを、ていねいに具体的に話をしていただきとても良くわかりました。今日のお話を今後にも生かしていけるよう努力してしきたいと思います。大変貴重なお話有難うございました。

<教師>大変わかりやすく、教室でどのように彼らをとらえていけばよいかお話いただけました。経験至上主義は絶対うまくいかないという言葉が教師はきもに命じなくてはと思います。

<保護者>我が子に当てはまることだらけでとてもわかりやすく聞かせて頂きました。子供2人共アスペルガーで学校での対応を今どうしていけばいいか先生と毎日試行錯誤の状態です。今日の話はわかりやすかったので学校の先生にも伝えたいと思います。もっと話をききたかったです。

文責 本部書記 藤岡聖典(東大阪市立縄手南中学校)

ICT活用プロジェクト研究会報告

2005年2月9日(水)「養護教育におけるICT活用の実際」のテーマで大阪府立岸和田養護学校の 小西 順 先生の研究授業がおこなわれました。

参加者は15名でした。授業を見せていただいたあと、自己紹介を兼ねて感想や質問の時間をとりましたが、熱心な質問に対し、小西先生は丁寧に答えてくださり、「講演内容がほとんど終わりました」といわれるほどでした。参加いただいた方が、それぞれの問題意識の中で授業を見ていただいたこと、それをうけて話していただいたこと、そして何よりも、その場で話しを聞いたこと、それらがいい雰囲気の研究会变成ったのではないかと思います。参加いただいた方それぞれが、いろんな思いを持ち帰っていただけたのではないのでしょうか。

府養研ICT活用プロジェクトにはメーリングリスト(以下 ML)があります。研究会以外でもEメールによって、希望者は互いにMLで意見情報を共有できます。(電子会議室のようなものです。)この記事はそのMLに書き込まれた内容を拾って当日の様子をお伝えしたいと思います。

(小西) 指導案のない公開授業、前代未聞だったのではないのでしょうかね。でも、それが、いつもの私達の授業の雰囲気をありのまま出す事が出来たのではないかと思っています。実は、この雰囲気をみなさんに見てもらえたのが、一番の今日の収穫だった様な気がします。さて、本日の公開授業を受けての質問、講演を通じて、私なりの思いをかなりの部分、お伝えできたと思っています。そんな訳で、今、充実感に浸っています。是非、みなさん、この手法(シミュレーションソフトを使った生活体験学習)を、現場で実践してくださいね。

(田村) 参加者にとっても「思い」が伝わったと思います。大事なのは、「思い」なんですよね

(平峰) 今日のような貴重な研究会の機会を企画して頂き、本当にありがたく思っています。今日のプロジェクターを使って複数の生徒または児童が自立に向けた学習ができることは、ものすごく驚きました。パソコンを使った学習の可能性がいろいろあることを教えて頂いた気がしています。ただ学習ソフトの自作は難しいので、子どもの興味や関心に対応した自作ソフトをより簡単、たとえば写真やビデオの張り替え等の変更で各自が使用できる汎用性がある自作ソフトがあるとうれしいです。ものすごく勝手な願いですが、そのような汎用性のある自作ソフトがあると、私のようにプログラム自体が難しい者でも、今、担当している子どもの興味・関心に合わせたものが作れて、そして結果的にたくさんの先生方のパソコン等を利用した学習方法の関心が高まり、そして個に応じた学習方法で、より多くの子どもの喜ぶ顔が今以上に見られる気がします。昨

年の8月の研究会で頂いた神座先生のマッキングソフト（FLashMax2004 版）は、いろいろと独自に加工できて私にはものすごく便利です。今後もそのソフトを使いたくてFLashMax2004 の正規ユーザーになりました。今回の研究会に参加して、ビデオを張り替えるようなことができる汎用性のあるものがあるといいなと思っています。見学後、今すぐに、学校で作ってみたいとなったものは、「マクドの店員さんに感謝のレター」（写真をクリックすると「ありがとうの声」が出てくるもの）です。自閉的傾向のある子の興味を引いてコミュニケーション力を高められそうな気がしました。小西先生、田村先生、本当にありがとうございました。今後もよろしくお願いします。

（金子）平峰先生、報告ありがとうございます。「くるくるクリック！」のワンクリック用は、小西先生の「ワンクリックで動かないんですか？」で生まれたんですよ。それまで、そういう発想が私にはなかったのです。今や、ワンクリックの方がアクセス件数は圧倒的に多いです。

（糸川）研究会に参加させていただきありがとうございました。研究授業で実際に生徒の様子を見せていただく事が出来て、大変勉強になりました。タッチパネルやプロジェクターのおもしろさが伝わってきて、生徒と一緒に授業に引き込まれてしまいました。帰ってから職場で話したところ、コンビニのソフトを使ってみたいという声を早速聞きました。私もFlashの勉強を続けて行きたいと思います。ありがとうございました。

（小西）平峰さんのからの、写真やビデオの差し替えで、より汎用性の高いソフトに出来ないかという件ですが、その通りだと思います。ところが、今回の私の「シミュレーションソフト群」は、ビデオ映像を多用しています。フラッシュのフレーム数は、一つの作品で数千から数万のフレーム数になっていて、その中でタイミングよく、ある特定のフレームにアクションを書いています。そんな関係で、平峰さんの要望には応えるのは、非常に難しいですね。もっとも、写真を使った作品、例えば、公開授業でお見せした、「写真と音声つきソフトレター」は、フレーム数は一つなので、簡単に汎用化は可能です。この講習を、今度のパソコン支援教室（2/12、10時、本校の自立活動室にて、今日ですが・・・）や、次回（未定、今日決まります）にしてみたいと思います。宜しかったら、ご参加ください。今後の「パソコン支援教室」の予定は、私のHP「障害児教育とパソコン」に随時載せる予定です。

（ICT活用研究会MLに参加しませんか？）



北河内LD研究会 講演会報告 (第4回第5回)**【第4回】**

日時 1月19日(水)

場所 門真ルミエールホール

テーマ**「一人一人を見つめて」～通常学級と校内での取り組みを通して～****講師 堺市立向丘小学校・堺LD研究会
米田 和子先生**

3学期が始まってまもなくの水曜日、会場は130人あまりの参加者で熱気にあふれていました。

米田先生から発達障害についての丁寧な説明がありました。また、LD及び周辺の子どもたちとは『学び方の違う子ども』と捉え、認知特性・障害特徴に配慮することが大切だということを、疑似体験などから具体的に学ぶことができました。子どものもつ問題点を認知レベルから見ることで、子どものセルフエスティームを下げないで適切な支援を考えることができます。それを見つけることが出来るのはまず通常学級の担任であるから、全ての教師が研修を積んでいくことが必要だと言うことを改めて強く感じました。

『みんな違って みんないい』違いを認め合う学級集団作りや、校内体制作りの必要性を強く感じました。また、保護者との信頼関係がまず大切で、その上でより子どもの支援方法が分かる検査があることを伝えると、どの保護者も安心して支援を託してくださるというお話でした。たくさんのお話を教えていただきました。少しずつ出来ることから取り組んでいきたいと思いました。

最後に『LD及び周辺の子ども達が生き生きできる学校とは すべての子ども達が生き生き出来る学校！そんな学校づくりを目指して・・・』のことばが印象に残りました。

【第5回】

日時 1月28日(金)

場所 寝屋川教育研修センター

テーマ

「発達障害のある児童・生徒と思春期の課題（二次障害への向き合い方）」

講師 大阪少年鑑別所首席専門官
小栗正幸先生

今回の講演会は6時からという遅い時間にもかかわらず、約60名の参加がありました。

人間の全ての行いが脳の働きによるという観点から、様々な指導の方法まで本当に具体的な話が多く、とても有意義な講演会でした。

発達障害のある子どもが必ずしも非行化しやすいのではなくむしろ非行化しにくいのが現状であるが、未療育の場合には注意が必要であるというお話から、改めて早期発見・早期療育の大切さを実感しました。そして、残念ながら発達障害の子どもが適応できにくい社会の中で生じてくる二次障害については、その予防や方策について具体的な形で示していただきました。

～「ほめて育てる」ことは、どんな子どもにとっても非常に大切であることはよく言われているが、ほめて指導する＝脳内の回路を育てることであり、発達障害の子どもには特に有効であるということ。しかし、叱ることを否定すれば指導はできなくなる。悪いことは悪いと教えることは大切であるが、その叱り方に工夫が必要であること。その具体的な方法として、例えば、できるだけ小さな声で「今から叱るよ」という一言からはじめるなど。～

対人関係や性に関しての指導のポイントも同様にとっても具体的に例を挙げながら説明していただきました。また、実際に指導していく中で実践できそうなことや、心掛ければならないことなどが多くあり、もっと多くの先生方に聞いていただきたい内容でした。今回の小栗先生のお話を参考にしながら、一番困っているのは子ども自身であることを忘れずに、教師としてできる限りの支援をしていければと考えています。

平成17年2月22日

各府県・市町村教育長 様
各 校 園 長 様
各 関 係 者 様

第42回全特連近畿ブロック研究協議会
和歌山大会実行委員長 山口 吉次

平成17年度全日本特別支援教育研究連盟

第42回近畿ブロック研究協議会和歌山大会

第51回和歌山県特別支援教育研究大会和歌山市大会
(一次案内)

1、大会テーマ

「一人ひとりの教育的ニーズに応える特別支援教育の実践をめざして」

2、趣旨

特殊教育から特別支援教育へと新しい波が学校現場に押し寄せています。中央教育審議会では「特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議」においてその最終報告の中で課題が提起されています。

このように、多様な障害のある幼児児童生徒に対する一人ひとりの教育的ニーズがなお一層求められています。

そのため、支援にあたる教職員は一人ひとりの教育的ニーズを正確に把握し、ニーズや実態に応じた個別の教育支援計画を作成し、実践していかなければなりません。

本大会では、昨今の情勢の中にあつて、幼児児童生徒が生き生きと主体的に活動し、豊かに生きる力を育むための特別支援教育の在り方を追求してまいります。

3、主催 近畿特別支援教育連絡協議会 和歌山県特別支援教育研究会
全日本特別支援教育研究連盟

4、共催 和歌山県教育委員会

5、後援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 奈良県教育委員会
(予定) 大阪府教育委員会 兵庫県教育委員会 京都市教育委員会
大阪市教育委員会 神戸市教育委員会 和歌山市教育委員会

6、日時 平成17年8月5日(金) 9:15～16:00

7、場所 和歌山県民文化会館 ・ ホテルアバローム紀の国
(和歌山市小松原通1-1) (和歌山市湊通丁北2丁目1-2)

8、参加資料代 3,500円(資料・通信費)

9、日程

9:15	9:35	9:50	10:30	12:00	13:00	16:00
受付	開場	開会行事	記念講演	昼食移動	分科会	

10、記念講演（10：30～12：00）

演題 「これからの学校教育と特別支援教育」

講師 宮崎 英 憲 東洋大学文学部教授

11、分科会（13：00～16：00）

分科会名	研究主題
1 早期教育	・特別な教育的ニーズのある幼児への望ましい支援の在り方
2 遊び・生活単元学習	・生活への興味関心を高め、主体的な生活への支援の在り方
3 ことば・かずの指導	・生活に生きることば・かずの指導の在り方
4 自立活動	・障害の実態や特性に応じた支援の在り方
5 進路指導	・個々のニーズに応じた進路指導の在り方
6 交流教育	・共に学び、共に育つ交流をめざした支援の在り方
7 LD・ADHD等への支援	・個々の教育的ニーズに応じた教育現場での支援の在り方
8 特別支援教育への体制づくり	・組織的、計画的に進めていくための連携支援体制の在り方

12、その他

参加申し込み、大会要項の詳細、参加費の振り込み、会場案内については、二次案内（5月の予定）でお知らせします。

大会実行委員長 山口 吉次 （和歌山県市立東中学校）

〒640-0342 和歌山市松原337番地

TEL 073-479-0044 FAX 073-479-0047